


| | | | |
|--------|-----|---|-----------|
| 分野 | 61 | 魅力発信 | 通番 121 |
| 施策 | 611 | シティプロモーションの推進 | |
| 5年後の目標 | | 都市ブランドコンセプトを行政・市民・団体・企業等で共有し、一丸となって“住みたい 住みつけたい”長岡京市の魅力を発信している。 | |

| 概要 | | | | | | | | |
|---|----------------|--|------|---|---|--------|------------|-------|
| P (概要) | 実施計画名称(予算事業名称) | | 予算科目 | | | 決算額(円) | 担当課 | |
| | シティプロモーション推進事業 | | 会計 | 款 | 項 | 目 | 15,023,200 | 広報発信課 |
| | | | 一般 | 2 | 1 | 2 | | |
| 事業の概要 | | | | | | | | |
| 各事業の質の磨き上げと発信手法の洗練化を徹底し、企業などの民間資源と相互作用することで、市内外への効果的なシティブランド力の訴求に努めます。 サブサイト、SNSなど、各種情報発信ツールの効果的な活用と、情報発信主体となる市民や団体との連携を強化することで、一過性に終わらせないプロモーションを推進します。 | | | | | | | | |


| 令和4年度の取組 | | | | | | | |
|---|--------------------|--------------------------------------|---------|---------|---|---------|---------|
| D (取組) | 指標① | SENSE NAGAOKAKYOアクセス数 | | | | 単位 | 件 |
| | 現 状 (計画策定時) | 年度 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| | 166,500 (令和元年度) | 目標 | 200,000 | 220,000 | 240,000 | 240,000 | 240,000 |
| | | 実績 | 275,791 | 382,660 | | | |
| | 指標② | 市民ライター等のSENSE NAGAOKAKYO及びSNSへの記事投稿数 | | | | 単位 | 件 |
| | 現 状 (計画策定時) | 年度 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 6(令和元年度) | 目標 | 18 | 24 | 30 | 36 | 42 | |
| | 実績 | 20 | 29 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 市制50周年特別記念事業では、副業・兼業人材プロデューサーによる専門的な知見を活用し、今後のプロモーションへのつながりを意識して取り組みました。 SENSE NAGAOKAKYOでは、企画記事の戦略的な配信やLINEでのピックアップ記事配信でアクセス数の増加を図りました。 市民ライター養成講座受講生や既存の市民ライターによる情報発信を積極的に実施するとともに、SNSを効果的に活用できるツールへ育てるため、Instagramでの投稿を強化しました。 | | | | |  アートプロジェクトの様子 | | |

| 施策の「5年後の目標」に対する評価 | | | | |
|-------------------|--|--------------------------------|--------------|-----|
| 令和4年度の達成状況 | | | | |
| C (評価) | 評価指標 | 関連する評価指標 | 評価指標の傾向・トレンド | 対応頁 |
| | 達成度合 | A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上) | 達成状況 | |
| 課題等 | <ul style="list-style-type: none"> 育成が進み、各方面で活動が進んでいる市民ライターの更なる活動の場を整備し、持続可能な「共感、共有サイクル」と「自走サイクル」の定着を図る必要があります。 | | | |

| 次年度以降の対応 | |
|-----------|---|
| A (行動) | 方向性 |
| | 1: 計画通りに進めることが適当 |
| | 対応策等 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 市民ライターが情報を発信できる機会の充実を図り、成功体験を積み上げていくことで自信につながり、自発的な情報発信機運を高めます。 |

| | | | |
|--------|---|---------------|-----------|
| 分野 | 61 | 魅力発信 | 通番 122 |
| 施策 | 611 | シティプロモーションの推進 | |
| 5年後の目標 | 都市ブランドコンセプトを行政・市民・団体・企業等で共有し、一丸となって“住みたい 住みつけたい”長岡京市の魅力を発信している。 | | |

| 概要 | | | | | | | |
|--|---------------------|--|------|---|--------|-------------|-------|
| P (概要) | 実施計画名称(予算事業名称) | | 予算科目 | | 決算額(円) | 担当課 | |
| | ふるさと納税を活用した市の魅力発信事業 | | 会計 | 款 | 項 | 117,455,905 | 広報発信課 |
| | | | 一般 | 2 | 1 2 | | |
| 事業の概要 | | | | | | | |
| ふるさと納税制度の趣旨に則り、市の魅力ある事業に共感してもらう「共感型事業」と、特産品から市の魅力を知ってもらう「返礼品型事業」の両輪で、本市を応援する“ファン”の獲得に努めます。 | | | | | | | |


| 令和4年度の取組 | | | | | | | | |
|-----------|--|--------------|--------|--------|--------|--------|--|---|
| D (取組) | 指標① | ふるさと納税件数 | | | | | 単位 | 件 |
| | 現 状 (計画策定時) | 年度 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | |
| | 7,575 (令和元年度) | 目標 | 12,000 | 12,000 | 12,000 | 12,000 | 12,000 | |
| | | 実績 | 9,172 | 12,344 | | | | |
| | 指標② | ふるさと納税協力事業者数 | | | | | 単位 | 件 |
| | 現 状 (計画策定時) | 年度 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | |
| | 22(令和元年度) | 目標 | 25 | 28 | 31 | 34 | 37 | |
| | | 実績 | 33 | 42 | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ファンと寄付額獲得のため、ポータルサイトを6から13へ大幅拡充しました。 話題性のある返礼品として、関西初のふるさとNFTや市制施行50周年記念マンホールを出品し、テレビをはじめ、複数のメディアに取り上げられました。 事業所訪問や50周年事業のクラウドファンディングを入口に新規事業所の開拓を進めつつ、既存の事業所からも有力な新商品の掲載を行いました。 魅力的なサイト作成や、検索結果で上位に出やすくする対策強化のため、中間事業者のプロポーザルを実施し、新しい中間事業者を選定しました。 | | | | | |  | |
| | ポータルサイト内で紹介する市特産品 | | | | | | | |

| 施策の「5年後の目標」に対する評価 | | | | |
|-------------------|--|--------------------------------|--|--|
| 令和4年度の達成状況 | | | | |
| C (評価) | 評価指標 | 関連する評価指標 | 評価指標の傾向・トレンド | 対応頁 |
| | | ふるさと納税額 | 全国のふるさと納税寄付額については増加傾向にあり、ふるさと納税市場の拡大を示しています。 本市では、競合先のある返礼品について、寄付額を本市より安く設定する自治体への流出が進む一方で、新製品の出品、登録ポータルサイトの増により年度後半に数値を盛り返し、寄付額は微減、寄付件数は増加となりました。 | 198 |
| | 達成度合 | A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上) | 達成状況 | <ul style="list-style-type: none"> 「新型コロナ助け合いプロジェクト」では全国から4件35,000円、共感型事業では市内外から17件513,000円の寄付を獲得し、新型コロナウイルス感染症対策に役立てるとともに、市のファンの拡大・事業への共感につながりました。 令和4年度の全体件数及び金額は、既存のビール関連製品への寄附減少が続く一方で、新規のビール関連製品の投入、ポータルサイト拡充や協力事業者拡充に取り組んだ結果、寄附金額は微減の234,738,500円となったものの、寄附件数は大幅増の12,344件となりました。 協力事業者数が33から42に拡大したことや、商品数の増加(令和元年度と比較して4倍以上)により、市の魅力発信、関係人口の創出という本来の目的達成に寄与しました。 |
| 課題等 | <ul style="list-style-type: none"> 本市の主力商品である既存のビール関連製品が、同商品を本市より安価で提供する競合他自治体へ流出していく流れは、今後も続いていくと思われます。 市の魅力発信、地元企業振興の両方に寄与するべく、更に協力事業者数の増加を図る必要があります。 共感型事業については、本市の魅力を体感できる体験型商品や、施策課題解決に繋がる商品など、昨今の寄附者ニーズによりマッチした返礼品事業展開の充実が必要です。 | | | |

| 次年度以降の対応 | | | | | |
|------------------|--|-----|------|------------------|--|
| A (行動) | <table border="1"> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> <tr> <td>1: 計画通りに進めることが適当</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> シティプロモーションと連動した新たな商品開発やPR手法確立などの支援に向け、協力事業者への丁寧なヒアリングによるニーズの拾い上げから実施します。 プロポーザルで決定した新たな中間事業者および各協力事業者と連動し、魅力的なサイト作りや情報発信を行います。 返礼品の種類を増やし、市の魅力発信の機会を増やすため、商工観光課・農林振興課と連携して協力事業者数の増加を図るとともに、体験・飲食・サービスなどの「コト」の充実に向けた研究を行い、実現を目指します。 </td> </tr> </table> | 方向性 | 対応策等 | 1: 計画通りに進めることが適当 | <ul style="list-style-type: none"> シティプロモーションと連動した新たな商品開発やPR手法確立などの支援に向け、協力事業者への丁寧なヒアリングによるニーズの拾い上げから実施します。 プロポーザルで決定した新たな中間事業者および各協力事業者と連動し、魅力的なサイト作りや情報発信を行います。 返礼品の種類を増やし、市の魅力発信の機会を増やすため、商工観光課・農林振興課と連携して協力事業者数の増加を図るとともに、体験・飲食・サービスなどの「コト」の充実に向けた研究を行い、実現を目指します。 |
| 方向性 | 対応策等 | | | | |
| 1: 計画通りに進めることが適当 | <ul style="list-style-type: none"> シティプロモーションと連動した新たな商品開発やPR手法確立などの支援に向け、協力事業者への丁寧なヒアリングによるニーズの拾い上げから実施します。 プロポーザルで決定した新たな中間事業者および各協力事業者と連動し、魅力的なサイト作りや情報発信を行います。 返礼品の種類を増やし、市の魅力発信の機会を増やすため、商工観光課・農林振興課と連携して協力事業者数の増加を図るとともに、体験・飲食・サービスなどの「コト」の充実に向けた研究を行い、実現を目指します。 | | | | |

| | | | |
|--------|---|---------------|-----------|
| 分野 | 61 | 魅力発信 | 通番 123 |
| 施策 | 611 | シティプロモーションの推進 | |
| 5年後の目標 | 都市ブランドコンセプトを行政・市民・団体・企業等で共有し、一丸となって“住みたい 住みつけたい”長岡京市の魅力を発信している。 | | |

| 概要 | | | | | | | | |
|--|---------------------------|--|------|---|---|--------|------------|-------|
| P (概要) | 実施計画名称(予算事業名称) | | 予算科目 | | | 決算額(円) | 担当課 | |
| | 長岡京ガラシャ祭(市民まつり) 開催支援事業 | | 会計 | 款 | 項 | 目 | 18,704,528 | 自治振興室 |
| | | | 一般 | 2 | 1 | 8 | | |
| 事業の概要 | | | | | | | | |
| ガラシャ祭は市内の多くの団体や個人の協力のもと、市民主体で行われる本市の歴史文化を発信する最大のイベントであり、観光振興に貢献できるよう、祭の開催を支援します。 | | | | | | | | |


| 令和4年度の取組 | | | | | | | |
|--|-------------------|----------------------------|--------|--------|--|--------|--------|
| D (取組) | 指標 | ガラシャ祭(ガラシャウィーク含む)に参加した延べ人数 | | | | 単位 | 人 |
| | 現 状 (計画策定時) | 年度 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| | 80,000 (令和元年度) | 目標 | 80,000 | 85,000 | 85,000 | 85,000 | 85,000 |
| | | 実績 | 4,567 | 21,000 | | | |
| <p>・3年ぶりに行列巡行・楽市楽座が開催され、会場の分散や消毒の徹底など感染症対策を行いながら、祭り開催の支援を行いました。</p> <p>・行列の配役募集および祭開催にあたっては、JR・阪急沿線でポスター掲示などを依頼し、市内外に周知を行いました。</p> <p>・祭りの1週間前の11月5日～13日までをガラシャウィークとし、期間中はバンビオ広場でのライブイベントなどが実施されました。</p> <p>・市制施行50周年を記念して戦国武将やちびっこ玉・忠興になって行列を巡行したり、玉・忠興の衣裳を着て勝竜寺城公園で記念撮影を行うプロジェクトを実施しました。</p> | | | | | | | |
| | | | | |  | | |
| 婚礼の儀の様子 | | | | | | | |

| 施策の「5年後の目標」に対する評価 | | | | | |
|-------------------|------|----------------------|--|--|-----|
| 令和4年度の達成状況 | | | | | |
| C (評価) | 評価指標 | 関連する評価指標 | 評価指標の傾向・トレンド | 対応頁 | |
| | 達成度合 | 観光入込客数・観光消費額 (日帰) | | 観光入込客数は新型コロナの影響がありながらも増加に転じました。観光消費額は、飲食店で観光客や消費額が増加したほか、通年で入山料を徴収するお寺が増えたことなどから改善しました。 | 188 |
| | | C:目標の一部を達成できなかった | 達成状況 | <p>・雨の中の開催となりましたが、約15,000人の来場がありました。</p> <p>・駅のポスター掲示やSNSを活用した周知により、市内外から119名の方にご応募をいただきました。</p> <p>・ガラシャウィークは、概ねコロナ前と同内容での実施ができ、約6,000人の参加がありました。</p> <p>・50周年記念プロジェクトには、一部抽選となり計48名が参加されました。普段は行列に参加の少ない小学校低学年など新たな層の方に参加いただくきっかけになりました。</p> | |
| 課題等 | | | <p>・物価の高騰により、現状通りの祭りの開催が厳しくなっています。</p> <p>・ガラシャ祭パンフレットのDX化など、ニーズの多様化に対応した実施・検討が必要です。</p> | | |

| 次年度以降の対応 | |
|-----------|---|
| A (行動) | 方向性 |
| | <p>1:計画通りに進めることが適当</p> <p>・参加費の値上げなどの収入増を検討するとともに、祭りのあり方の見直しが必要です。</p> <p>・パンフレットのDX化にあたっては、行列マップを電子化したり即時性のある情報発信をするなど、持続的に運用可能な基盤を導入できるよう実行委員会で比較検討し、進めていきます。</p> |

| | | | |
|--------|-----|---|-----------|
| 分野 | 62 | 都市経営 | 通番 124 |
| 施策 | 621 | パートナーシップ | |
| 5年後の目標 | | 対話を通じて、多様な主体が自律的にまちづくりに参画している。 広域的な連携のもと、充実した行政サービスが提供されている。 | |

| 概要 | | | | | | | | |
|---|----------------|--|------|---|---|--------|-------|-----|
| P (概要) | 実施計画名称(予算事業名称) | | 予算科目 | | | 決算額(円) | 担当課 | |
| | 市長と語る対話のわ事業 | | 会計 | 款 | 項 | 目 | 5,600 | 秘書課 |
| | | | 一般 | 2 | 1 | 2 | | |
| 事業の概要 | | | | | | | | |
| 様々な手法で市民と市長による対話を行い、市の現状や課題を共有します。対話により得られた市民ニーズを広く行政施策に反映させながら、市民と共に考え、まちづくりを進めます。 | | | | | | | | |

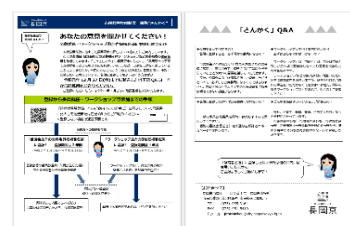
| 令和4年度の取組 | | | | | | | |
|---|---------------|---------------|----|---|----|----|----|
| D (取組) | 指標 | 市長と語る対話のわ開催回数 | | | | 単位 | 回 |
| | 現状 (計画策定時) | 年度 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| | | 目標 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 |
| | 18(令和元年度) | 実績 | 18 | 20 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・市長と語る「対話のわ」を年20回開催しました。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を講じたうえでの集合型を基本としながらも、集合型以外の開催手法として引き続き、市広報紙を活用した対話ウィークを4回開催しました。 ・対話ウィークについては、新たに市公式LINEによる周知を行いました。また、投稿者の利便性向上のため、周知の際に投稿フォームのURLを貼り付ける等の改善を行いました。 | | | |  | | | |
| 対話のわの様子 | | | | | | | |

| 施策の「5年後の目標」に対する評価 | | | | |
|-------------------|--|-------------------------------|--------------|--|
| 令和4年度の達成状況 | | | | |
| C (評価) | 評価指標 | 関連する評価指標 | 評価指標の傾向・トレンド | 対応頁 |
| | | — | — | — |
| | 達成度合 | A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上) | 達成状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数は前年度より2回多く、目標回数である20回を達成することができました。新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、市民や団体と市長との対話の機会をより多く創出し、市の現状や課題を共有することができました。 ・対話ウィークの周知方法等の改善により投稿者の利便性が向上したことで、意見投稿者が前年度(令和4年度と同数の4回開催)の32名から24名増の56名となり、より多くの意見を頂くことができました。 |
| 課題等 | <ul style="list-style-type: none"> ・市役所庁舎の建替えに合わせて整備を進めているデジタル環境や市政情報・各種イベントを発信している市公式LINE等、本市の持つ資源を「対話のわ」に活用することで、より幅広い方々に対話の機会を提供し続けていく必要があります。 | | | |

| 次年度以降の対応 | |
|-----------|--|
| A (行動) | 方向性 |
| | 1:計画通りに進めることが適当 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて様々な開催手法や周知方法を工夫しながら「対話のわ」の機会を創出し、市民と市長による対話を通じて市民と共に考え、魅力ある長岡京市のまちづくりを進めます。 |

| | | | |
|--------|-----|---|-----------|
| 分野 | 62 | 都市経営 | 通番 125 |
| 施策 | 621 | パートナーシップ | |
| 5年後の目標 | | 対話を通じて、多様な主体が自律的にまちづくりに参画している。 広域的な連携のもと、充実した行政サービスが提供されている。 | |

| 概要 | | | | | | | | |
|---|----------------|--|------|---|---|--------|-----|-------|
| P (概要) | 実施計画名称(予算事業名称) | | 予算科目 | | | 決算額(円) | 担当課 | |
| | 市民公募委員推進事業 | | 会計 | 款 | 項 | 目 | 0 | 自治振興室 |
| | | | 一般 | 2 | 1 | 18 | | |
| 事業の概要 | | | | | | | | |
| 無作為抽出方式による「市民参画登録制度」を活用し、計画策定等により幅広い市民の参画を推進します。あわせて、各種団体推薦枠を見直すことにより、団体役員の負担軽減を図ります。 | | | | | | | | |


| 令和4年度の取組 | | | | | | | |
|--|----------------|---------------------|-----|-----|--|-----|-----|
| D (取組) | 指標 | 市民公募委員の参画がある審議会等の比率 | | | | 単位 | % |
| | 現 状 (計画策定時) | 年度 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| | 93.1(令和元年度) | 目標 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | | 実績 | 100 | 100 | | | |
| <p>・あらゆる分野で市民が意思決定に参画できるしくみを作り、市民の意見をまちづくりに反映するため、審議会等の設置・委員改選時に市民公募委員の参画を確認する「審議会シート」を各課から提出してもらい、公募委員の参画を推進しました。</p> <p>・庁内インフォメーションで周知し活用促進することで、審議会等における市民参画・ワークショップへの市民参加を推進しました。</p> | | | | | <p>市民参画登録制度案内チラシ</p>  | | |

| 施策の「5年後の目標」に対する評価 | | | | | |
|-------------------|------|---|--------------|---|--|
| 令和4年度の達成状況 | | | | | |
| C (評価) | 評価指標 | 関連する評価指標 | 評価指標の傾向・トレンド | 対応員 | |
| | 達成度合 | A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上) | 達成状況 | <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度末現在、行政委員会と休会中及び審議内容に専門的な知識を必要とする審議会等を除く28の審議会等のうちすべての審議会等で公募委員が採用され、採用率は100%となりました。 市民参画登録名簿を利用し、令和4年度中に3人が委員に就任しました。 | |
| | 課題等 | <ul style="list-style-type: none"> 公募委員の採用にあたり、一般公募だけではなく登録名簿を併用できることを周知していく必要があります。 より幅広い市民の参画に向け、登録者の活用機会の拡充につなげる工夫が必要です。 | | | |

| 次年度以降の対応 | |
|-----------|---|
| A (行動) | 方向性 |
| | <p>1:計画通りに進めることが適当</p> <p>対応策等</p> <ul style="list-style-type: none"> 審議会等の所管部署に対し、委員改選のタイミングで公募委員の採用を促します。 市民参画登録制度の活用事例を紹介するなど、施策や企画への市民参画活性化につなげます。 各種団体・推薦枠への市民公募活用の可能性について調査・検討を進めます。 |

| | | | |
|--------|-----|---|-----------|
| 分野 | 62 | 都市経営 | 通番 126 |
| 施策 | 621 | パートナーシップ | |
| 5年後の目標 | | 対話を通じて、多様な主体が自律的にまちづくりに参画している。 広域的な連携のもと、充実した行政サービスが提供されている。 | |

| 概要 | | | | | | | |
|--|----------------|--|------|---|--------|-----------|-------|
| P (概要) | 実施計画名称(予算事業名称) | | 予算科目 | | 決算額(円) | 担当課 | |
| | 自治振興条例の制定 | | 会計 | 款 | 項 | 7,718,493 | 自治振興室 |
| | | | 一般 | 2 | 1 | | |
| 事業の概要 | | | | | | | |
| 住民との情報共有や対話の推進などを含めた総合的な自治体経営のあり方の指針を定めるとともに、「自助・互助・共助・公助」のあり方を再認識し、パートナーシップによる市民協働のまちづくりを推進します。 | | | | | | | |

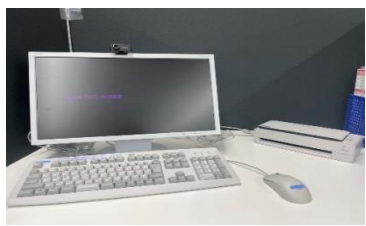
| 令和4年度の取組 | | | | | | | |
|-----------|----------------|---|-----------------------|---------------|---|--|---|
| D (取組) | 指標 | (仮称)自治振興条例の制定 | | | | 単位 | — |
| | 現 状 (計画策定時) | 年度 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| | — | 目標 | 市民ワークショップ・条例検討委員会等の開催 | (仮称)自治振興条例の制定 | — | — | — |
| | 実績 | 市民ワークショップ・条例検討委員会等の開催 | 助け合いとつながりのまちづくり条例の制定 | | | | |
| | | <p>・市民の意見をより反映した条例とするため、①市民ワークショップ「自分ごと化会議」、②(仮称)自治振興条例検討委員会(自分ごと化会議との同時開催あり)、③(仮称)自治振興条例意見交換会を開催しました。</p> <p>・条例の素案を策定し、条例案を議会へ上程。「助け合いとつながりのまちづくり条例」を制定、施行しました。</p> | | | | <p>自治振興条例検討委員会・自分ごと化会議合同会議</p>  | |

| 施策の「5年後の目標」に対する評価 | | | | |
|-------------------|------|--|---|-----|
| 令和4年度の達成状況 | | | | |
| C (評価) | 評価指標 | 関連する評価指標 | 評価指標の傾向・トレンド | 対応員 |
| | | — | — | — |
| | 達成度合 | A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上) | <p>・令和3年度から継続して開催している「自分ごと化会議」を2回(4班各2回、計8回)、条例検討委員会を6回、条例意見交換会を4回、いずれも地域課題や自治・共助などについて自分ごととして捉えながら検討を深めることで、より市民の考えや想いを反映させた理念を表現する条例素案を策定することができました。この素案を受け、令和5年1月1日に「長岡京市助け合いとつながりのまちづくり条例」が施行されました。</p> | |
| | 課題等 | ・施行された条例の市民等への周知、理念に沿った行動機会を創出していく必要があります。 | | |

| 次年度以降の対応 | | |
|-----------|------------------|--|
| A (行動) | 方向性 | 対応策等 |
| | 4:根本的見直し、休・廃止の検討 | <p>・条例素案ができたのち、法令審査委員会、意見公募(パブコメ)を経て、議会に上程し、令和5年1月1日に「助け合いとつながりのまちづくり条例」が施行されたため、本事業については廃止となり、新たに、条例の推進に特化した実施計画事業を設定します。</p> <p>・条例の理念を周知していくための事業として、無作為抽出や公募による市民ワークショップ「考える場」などを実施していきます。</p> |

| | | | |
|--------|-----|---|-----------|
| 分野 | 62 | 都市経営 | 通番 127 |
| 施策 | 622 | 市民の利便性向上 | |
| 5年後の目標 | | 行政手続きにおける市民の負担が軽減され、誰もが分かりやすく利用しやすい環境のもと、行政サービスを享受している。 | |

| 概要 | | | | | | | | |
|---|----------------|--|------|---|---|--------|------------|---------|
| P (概要) | 実施計画名称(予算事業名称) | | 予算科目 | | | 決算額(円) | 担当課 | |
| | 行政手続きの利便性向上事業 | | 会計 | 款 | 項 | 目 | 87,748,884 | デジタル戦略課 |
| | | | 一般 | 2 | 1 | 12 | | |
| 事業の概要 | | | | | | | | |
| 行政のデジタル化や、対面・書面規制等の見直しを進め、より利便性の高い行政手続きや決済手法を導入します。 | | | | | | | | |


| 令和4年度の取組 | | | | | | | |
|--|----------------|-----------------|-------------------|-------------|---|----|---|
| D (取組) | 指標 | 行政手続き等のデジタル化の状況 | | | | 単位 | — |
| | 現 状 (計画策定時) | 年度 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| | — | 目標 | スマホによる手数料等の電子決済導入 | 窓口手続きのデジタル化 | スマホによる公的個人認証制度導入 | — | — |
| | | 実績 | スマホによる手数料等の電子決済導入 | 窓口手続きのデジタル化 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・2月の新庁舎(1期)供用開始に合わせ、新庁舎(1期)の窓口設置課にて窓口申請支援システムを導入しました。 ・オンライン手続きの機能拡充として、市公式LINEでの手数料等のオンライン決済導入に向けた検討を行いました。 ・引越しワンストップシステムのシステム改修を実施しました。 | | | | | 窓口申請支援システム  | | |

| 施策の「5年後の目標」に対する評価 | | | | | |
|-------------------|------|-------------------------------|--------------|--|---|
| 令和4年度の達成状況 | | | | | |
| C (評価) | 評価指標 | 関連する評価指標 | 評価指標の傾向・トレンド | 対応頁 | |
| | 達成度合 | A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上) | 達成状況 | ・窓口申請支援システムを、新庁舎(1期)の供用開始に合わせて8課42窓口で導入し、デジタル戦略で掲げている「書かない、待たない」市役所の実現に寄与しました。 | — |
| | | 課題等 | | ・スマホによる施設使用料等の電子決済については、キャンセル等の返金対応など業務フローを大きく変える必要があるため、引き続き各施設と協議していく必要があります。 ・手数料のオンライン決済導入による利便性の向上について担当課と協議していく必要があります。 | |

| 次年度以降の対応 | | |
|-----------|-----------------|--|
| A (行動) | 方向性 | 対応策等 |
| | 1:計画通りに進めることが適当 | ・デジタル戦略で掲げている「書かない、待たない、行かなくてもよい市役所」を実現するため、オンライン手続やオンライン決済の拡大を進めます。 |

| | | | |
|--------|-----|---|-----------|
| 分野 | 62 | 都市経営 | 通番 128 |
| 施策 | 622 | 市民の利便性向上 | |
| 5年後の目標 | | 行政手続きにおける市民の負担が軽減され、誰もが分かりやすく利用しやすい環境のもと、行政サービスを享受している。 | |

| 概要 | | | | | | | |
|--|-------------------------|--|------|---|--------|------------|-------|
| P (概要) | 実施計画名称(予算事業名称) | | 予算科目 | | 決算額(円) | 担当課 | |
| | 市民との情報コミュニケーション 充実事業 | | 会計 | 款 | 項 | 19,875,044 | 広報発信課 |
| | | | 一般 | 2 | 1 | | |
| 事業の概要 | | | | | | | |
| <p>広報紙やホームページ、各種SNSなど、「伝わる」ことを目的とした情報コミュニケーションツールや手法を整備し、必要な人に必要な情報が的確に届けられる環境を目指します。また、ターゲットのアクションにつながるツールの選択や、その効果をより高めるための質の洗練化により、市民の利便性の向上につなげます。</p> | | | | | | | |


| 令和4年度の取組 | | | | | | | |
|--|----------------------|--------------------|------------|-----------|-----------|--|-----------|
| D (取組) | 指標① | ホームページ閲覧数 | | | | 単位 | 件 |
| | 現 状 (計画策定時) | 年度 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| | 4,251,792 (令和元年度) | 目標 | 4,300,000 | 4,400,000 | 4,500,000 | 4,600,000 | 4,700,000 |
| | | 実績 | 10,629,685 | 7,252,000 | | | |
| | 指標② | LINE公式アカウントのお友達登録数 | | | | 単位 | 人 |
| | 現 状 (計画策定時) | 年度 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 6,373 (令和3年1月) | 目標 | 10,000 | 11,500 | 13,000 | 14,500 | 16,000 | |
| | 実績 | 39,538 | 81,147 | | | | |
| <p>・ 広報紙を年間12回発行し、市内全ての世帯と事業所に配布しました。紙面制作時は、「記事を読んだ市民にどういった行動を起こしてほしいか」を想定した上で、表現やデザインを工夫しました。</p> <p>・ 市民ライターを起用した連載記事の掲載を継続しました。「市民が知りたい内容を市民目線で伝える」ことで、行政情報をより身近に感じてもらうとともに、自身も発信者になり得ることに気づいてもらうきっかけとなりました。</p> <p>・ 各SNSの特性に沿った情報を選択し、発信手法の工夫を重ねるとともに、アルゴリズムなどの解析に取り組むことで「必要な人に届く」情報発信に努めました。</p> | | | | | | <p>市民ライターが執筆した広報紙面</p>  | |

| 施策の「5年後の目標」に対する評価 | | | | |
|-------------------|------|--------------------------------|--|-----|
| 令和4年度の達成状況 | | | | |
| C (評価) | 評価指標 | 関連する評価指標 | 評価指標の傾向・トレンド | 対応頁 |
| | | | — | — |
| C (評価) | 達成度合 | A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上) | <p>・ SNSやFMおとくに積極的に発信し、「情報がある」ことへの気づき、詳細を記したホームページへ誘導、という情報コミュニケーションスタイルの定着を引き続き図りました。また、令和5年1月にホームページをリニューアルし、「欲しい情報にたどり着きやすいこと」を主眼に置いたトップページデザインとしました。閲覧数は7,252,000件と目標を大きく上回りました。</p> <p>・ 市公式LINEは、情報取得や各種手続きがスマートフォンでできることから、市民の利便性向上に寄与しており、お友だち登録数が着実に増加しています。令和4年度は「LINEクーポン祭」を実施した影響もあり、目標値を大きく上回る81,147人となりました。</p> <p>・ 広報紙は「市民一人一人のアクションにつなげる」ことにこだわった編集に努めたことで、紙面アンケートでも肯定的な意見をいただいております。5段階の満足度調査で平均4.31と高い数値となりました。</p> | |
| | 課題等 | | <p>・ ホームページアクセス数の伸びに大きく寄与しているのがコロナ関係のコンテンツであるため、コロナ禍終息後も継続して閲覧してもらう工夫が必要です。</p> <p>・ LINEのお友だちアクティブユーザー数を維持するために、必要な情報が必要なタイミングで届くよう、発信方法を工夫していく必要があります。</p> <p>・ 広報紙の編集に当たっては、「伝わり、行動につながる」ことを主眼に置いた編集を進めるとともに、紙面製作の担い手として育成が進んでいる市民ライターを引き続き活用していくことで、市民が行政情報を身近なこととして捉え、自分ごととして落とし込んでいけるよう取り組む必要があります。</p> | |

| 次年度以降の対応 | |
|-----------|---|
| A (行動) | <p>方向性</p> <p>1: 計画通りに進めることが適当</p> <p>対応策等</p> <p>・ 「情報がある」ことへの気づきからスムーズにホームページへつなぐことを意識し、今必要な情報がどこにあるのかを分かりやすくすることで、閲覧数の維持に努めます。</p> <p>・ 成熟しつつある市民ライターを積極的に活用し、広報紙などにより身近なコンテンツを掲載することで、市民の情報取得への意欲を高め、情報を「自ら取りに行く」機運を高めます。</p> |

| | | | |
|--------|-----|---|-----------|
| 分野 | 62 | 都市経営 | 通番 130 |
| 施策 | 623 | 健全な行財政運営 | |
| 5年後の目標 | | 健全な財政運営と市有財産の有効活用により、持続可能かつ弾力的な都市経営が行われている。 | |

| 概要 | | | | |
|---|------------------------------|----------|--------|--------------------|
| P (概要) | 実施計画名称(予算事業名称) | 予算科目 | 決算額(円) | |
| | 公営企業会計事業 (上下水道事業)経営の適正化事業 | 会計 款 項 目 | — | 担当課 上下水道 総務課 |
| | | 公営企業会計 | | |
| 事業の概要 | | | | |
| 企業会計の独立採算制を確保しながら定期的に上下水道料金を検証します。将来にわたり安定した水道水の供給を行っていくため、広域化・広域連携の検討を含め上下水道ビジョンに基づいた事業運営を行うとともに、計画性・透明性の高い経営を推進します。 | | | | |


| 令和4年度の取組 | | | | | | | |
|-----------|---|-------------|---------|--------|-------|---|-------|
| D (取組) | 指標① | 水道事業:経常収支比率 | | | | 単位 | % |
| | 現 状 (計画策定時) | 年度 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| | 107.41 (令和元年度) | 目標 | 90.8以上 | 94.0以上 | 100以上 | 100以上 | 100以上 |
| | | 実績 | 101.52 | 99.15 | | | |
| | 指標② | 下水道事業:経費回収率 | | | | 単位 | % |
| | 現 状 (計画策定時) | 年度 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| | 84.04 (令和元年度) | 目標 | 前年度より向上 | 100以上 | 100以上 | 100以上 | 100以上 |
| | | 実績 | 89.67 | 99.09 | | | |
| | <p>・水道事業については、令和2年10月に実施した水道料金の引き下げや有収水量の減少による収益の減少、電気料金や物価高騰の影響により前年度実績を下回りましたが、経費削減など健全性・効率的な事業運営に努めた結果、目標値を達成しました。</p> <p>・下水道事業については、令和3年10月に実施した下水道使用料の引き上げにより経費回収率は改善していますが、電気料金や物価高騰の影響があったため、昨年度から引き続き経費削減に努めました。</p> | | | | | <p>上下水道ビジョン</p>  | |

| 施策の「5年後の目標」に対する評価 | | | |
|-------------------|---|----------|---|
| 令和4年度の達成状況 | | | |
| C (評価) | 評価指標 | 関連する評価指標 | 評価指標の傾向・トレンド |
| | 達成度合 | 達成状況 | 上下水道料金の推移 |
| | | | <p>水道料金については、令和2年10月より平均5.4%の引き下げとなりました。下水道使用料については、令和3年10月より平均19.8%の引き上げとなりました。上下水道料金は、令和5年2月時点の京都府下での比較では、24市町の中で真ん中よりやや下に位置しています。</p> <p>・水道事業の経常収支比率は99.15%となりました。目標としていた94%を上回り、安定した経営が維持されています。</p> <p>・下水道事業の経費回収率は、令和3年10月に実施した下水道使用料の改定等により、前年度の89.67%を上回り、99.09%となりました。</p> |
| 課題等 | <p>・業務用の水量が新型コロナウイルス感染症拡大以前に回復しつつある一方で、増加していた家庭用の水量が新型コロナウイルス感染症拡大以前に戻りつつあることから、令和4年度の全体の有収水量は、水道事業・下水道事業ともに昨年度を下回りました。今後も水需要の変化に注視していく必要があります。</p> | | |
| 対応頁 | 196 | | |

| 次年度以降の対応 | |
|-----------|--|
| A (行動) | <p>方向性</p> <p>1:計画通りに進めることが適当</p> <p>対応策等</p> <p>・水需要の変化等に注視し、その時々事業環境を適切に把握するとともに、効率的な事業運営を図り、上下水道ビジョン(経営戦略)に掲げるさまざまな取り組みを進めます。</p> |

| | | | |
|--------|-----|--|-----------|
| 分野 | 62 | 都市経営 | 通番 131 |
| 施策 | 624 | 組織基盤の確立 | |
| 5年後の目標 | | 市民ニーズや社会情勢に対応した市役所組織体制が整備され、機能的に運用されている。 | |

| 概要 | | | | | | | |
|---|----------------|--|------|---|--------|-------------------------|-----|
| P (概要) | 実施計画名称(予算事業名称) | | 予算科目 | | 決算額(円) | 担当課 | |
| | 職員の確保と育成 | | 会計 | 款 | 項 | 76,493,211 3,877,147 | 職員課 |
| | | | 一般 | 2 | 1 | | |
| 事業の概要 | | | | | | | |
| <p>政策形成能力をはじめとする職員の意識改革と能力向上につながる集合研修や派遣研修等の実施により、社会環境、行政環境の変化に的確に対応できる経営感覚を持った職員の育成を行います。</p> <p>職員の年齢構成の変化に対応できるような計画的な採用を行うとともに、職場のマネジメント能力を高め、職員の健康管理やワーク・ライフ・バランスに取り組みます。</p> <p>チャレンジが評価につながるような組織・人事・評価制度を実現し、職員のモチベーションや能力向上につなげます。</p> | | | | | | | |


| 令和4年度の取組 | | | | | | | |
|-----------|--|------------|-------|-------|-------|-------|---|
| D (取組) | 指標① | 人事評価結果の平均点 | | | | 単位 | 点 |
| | 現 状 (計画策定時) | 年度 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| | 58.2(令和元年度) | 目標 | 56以上 | 56以上 | 56以上 | 56以上 | 56以上 |
| | | 実績 | 58.5 | 58.4 | | | |
| | 指標② | 職員定数の充足率 | | | | 単位 | % |
| | 現 状 (計画策定時) | 年度 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| | 100.7(令和2年 4月1日時点) | 目標 | 100以上 | 100以上 | 100以上 | 100以上 | 100以上 |
| | | 実績 | 101.6 | 102.2 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・新任主査、中級Ⅰ部等の階層別研修…14講座(378人) ・DXやメンタルヘルス、市民参画協働等の集合研修…15講座(576人) ・京都府市町村振興協会等の派遣研修…39講座(79人) <p>令和4年度は、階層毎に求められる能力の向上を図る研修や、行政環境の変化に対応できる能力開発を目的とした研修等を重点的に実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人事評価において職員の目標管理を支援し、人材育成につなげるため、評価者面談や研修を実施しました。 ・職員定数については、毎年実施している9月試験に加えて、専門職を対象とする試験を6月と1月に実施し、人材の確保に努めました。 | | | | | |  <p>中級Ⅰ部職員研修</p> |

| 施策の「5年後の目標」に対する評価 | | | | |
|-------------------|---|---|---|-----|
| 令和4年度の達成状況 | | | | |
| C (評価) | 評価指標 | 関連する評価指標 | 評価指標の傾向・トレンド | 対応員 |
| | | — | — | — |
| | 達成度合 | <p>A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)</p> <p>達成状況</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・階層別研修の実施により、若手職員の職務遂行力等の向上を図るとともに、昇任者にマネジメント等の職位に対応した能力を身に付けさせました。また、専門分野の派遣研修やDX等の集合研修実施により、知識を更新し、新たなニーズに対応できる人材を育成しました。 ・職員定数については、定員管理計画の目標値556名に対し、令和5年4月1日時点568名と定数を確保した運用を行いました。 | |
| 課題等 | <ul style="list-style-type: none"> ・世代交代に伴う管理・監督職の若返り等に伴い、職位に求められる能力を身に付ける階層別研修の実施が引き続き必要となっています。 ・職場外研修について、一定期間業務を離れるため、職場の理解と協力が必要です。 ・職員定数について、引き続き世代構成の均衡や恒常的に発生する育児休業等による人手不足感の解消も図りながら定数を確保していくことが必要です。 | | | |

| 次年度以降の対応 | |
|-----------|---|
| A (行動) | <p>方向性</p> <p>1: 計画通りに進めることが適当</p> <p>対応策等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成を目的とした人事評価制度の安定的な運用のため、人事評価に係る研修を引き続き実施します。 ・安定した行政運営を行うため、定員管理計画に基づく計画的な採用の実施と、採用後の階層別研修や専門実務の習得を図る派遣研修を実施し、職員の人材育成を引き続き行います。 |

| | | | |
|--------|-----|--|-----------|
| 分野 | 62 | 都市経営 | 通番 132 |
| 施策 | 624 | 組織基盤の確立 | |
| 5年後の目標 | | 市民ニーズや社会情勢に対応した市役所組織体制が整備され、機能的に運用されている。 | |

| 概要 | | | | | | | | |
|---|----------------|--|------|---|---|--------|-------------|---------|
| P (概要) | 実施計画名称(予算事業名称) | | 予算科目 | | | 決算額(円) | 担当課 | |
| | NICEシステム総括管理事業 | | 会計 | 款 | 項 | 目 | 104,286,949 | デジタル戦略課 |
| | | | 一般 | 2 | 1 | 12 | | |
| 事業の概要 | | | | | | | | |
| 住民生活に直結し、個人情報を多く含む基幹業務システムの物理的・技術的・人的セキュリティ管理に努めながら、行政事務システムの安定稼働と効率化を図ります。 | | | | | | | | |

| 令和4年度の取組 | | | | | | | |
|--|----------------|------------------------|---|---|---|--|---|
| D (取組) | 指標 | 基幹業務システムにおけるウイルス感染被害件数 | | | | 単位 | 件 |
| | 現 状 (計画策定時) | 年度 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| | 0 | 目標 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 実績 | 0 | 0 | | | |
| <p>・基幹系システムを取り扱う端末等に対し、ウイルス対策ソフトのパターンファイルの更新、データのバックアップ、操作ログの監視を随時行っています。</p> <p>・国のセキュリティポリシーに関するガイドラインの改正に伴い、令和4年8月に市のセキュリティポリシーを改正し、全職員に周知を行いました。</p> <p>・令和4年8月から12月にかけて全部署を対象としたセキュリティ監査(自己点検)を行い、更に9部署を選定し、実地監査を実施しました。</p> <p>・令和4年9月から11月にかけて全職員を対象としたeラーニング研修を実施し、ITリテラシーの向上に努めました。</p> | | | | | | <p>新庁舎電算室NW監視モニター</p>  | |

| 施策の「5年後の目標」に対する評価 令和4年度の達成状況 | | | | | |
|---------------------------------|------|---|---|-----|---|
| C (評価) | 評価指標 | 関連する評価指標 | 評価指標の傾向・トレンド | 対応員 | |
| | | | — | — | — |
| | 達成度合 | A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上) | <ul style="list-style-type: none"> ・基幹系ネットワークに設置したログ監視サーバやウイルス対策サーバの記録から、不審なプログラムやウイルスは検出されませんでした。 ・全職員を対象としたeラーニングは、育児休業などの長期休職中の職員を除き、全ての職員が受講しました。 ・令和4年度に実施したセキュリティ監査の結果、軽微な指摘事項はあったものの概ね適切に運用されていました。 | | |
| | 課題等 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年9月にデジタル庁が発足し、今後自治体のデジタル化が急速に進展することに伴い、市民の利便性・業務効率の向上が期待される一方、ウイルス感染や情報漏えいのリスクが高まると考えられます。 ・セキュリティ対応機器導入・運用など物理的・技術的セキュリティ対策だけでなく、引き続き、研修による職員のセキュリティ意識の向上など人的セキュリティ対策が求められます。 | | | |

| 次年度以降の対応 | |
|-----------|---|
| A (行動) | 方向性 |
| | <p>1: 計画通りに進めることが適当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員を対象とした研修を通して、引き続き、情報セキュリティ意識の啓発を行います。 ・関係事業者との調整・連携を密に行い、情報資産が適切に管理・運用されるよう努めます。 ・令和7年度までに予定している基幹システムの標準化対応及びガバメントクラウドへの移行後も引き続きシステムが安定利用できるよう、関係部署・関係事業者と綿密に調整を行います。 |